スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

北海道根室市

自 治 体 名 ： 北海道根室市
担 当 課 名 ： 教育委員会教育総務課
電 話 番 号 ： 0153-23-6111

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	502.65㎢
人口	21,860人
公立中学校数	6校
公立中学校生徒数	426人
部活動数 （運動部活動のみ）	30部活
地域クラブ活動数	0クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

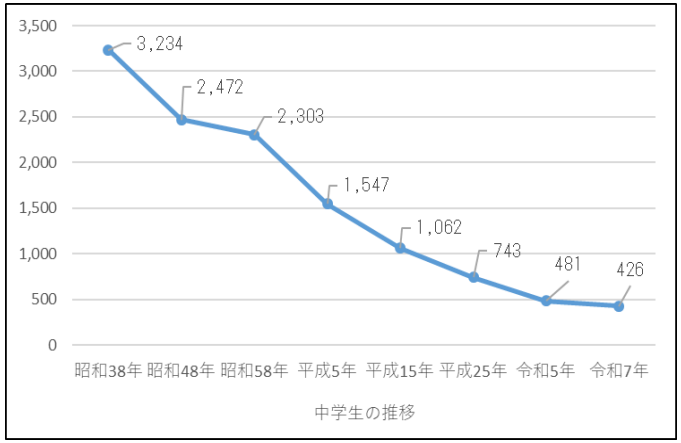
根室市は北海道の東端に位置し、太平洋とオホーツク海に突き出した半島とその付け根に当たる部からなりたっており、児童生徒数は、昭和38年度に中学校10校、生徒数3,234人をピークにその後減少し現在は中学校と義務教育学校の6校、426人（13.2%）となっている。

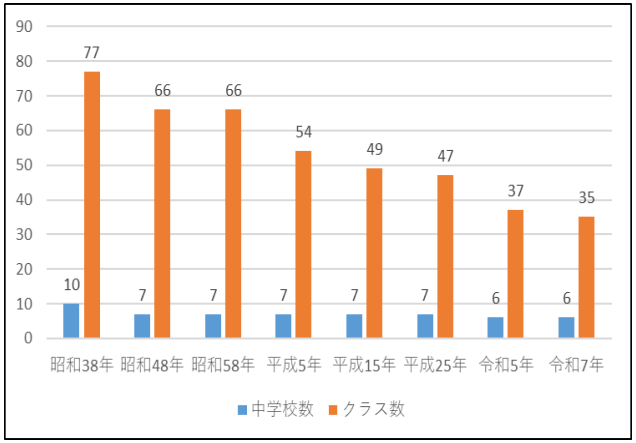
学校の働き方改革等の諸課題に取組むとともに、将来にわたって子ども達のスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を地域全体で支える「部活動の地域移行」を進め、学校を含めた地域全体の協力により生徒にとって望ましい活動の環境改革に取組んでいる。

・根室市の中学校等の部活動は、人口減少に伴い生徒数も減少し、部員数も減少する中、サッカー等のチーム競技は一校だけでは部員が足りず、複数校の合同チームとして活動している種目もある一方、児童を対象とした少年団等は、地域の指導者のもと活動しており、児童の文化・スポーツ活動の環境が維持されるケースもある。

・国の指針に基づく移行を進めるため、地域の競技団体から推薦いただいた指導者を登録し、学校との協議が整った部活動から「試行」として複数校が集まる休日の合同練習に地域の指導者が入り指導に当たっている。

・試行としての取組をとおし、種目により抱える課題に違いがあることから、画一的な地域移行ではなく、個々の種目の現状把握と分析を行うとともに個々の課題を把握し、地域移行をすすめることが必要である。





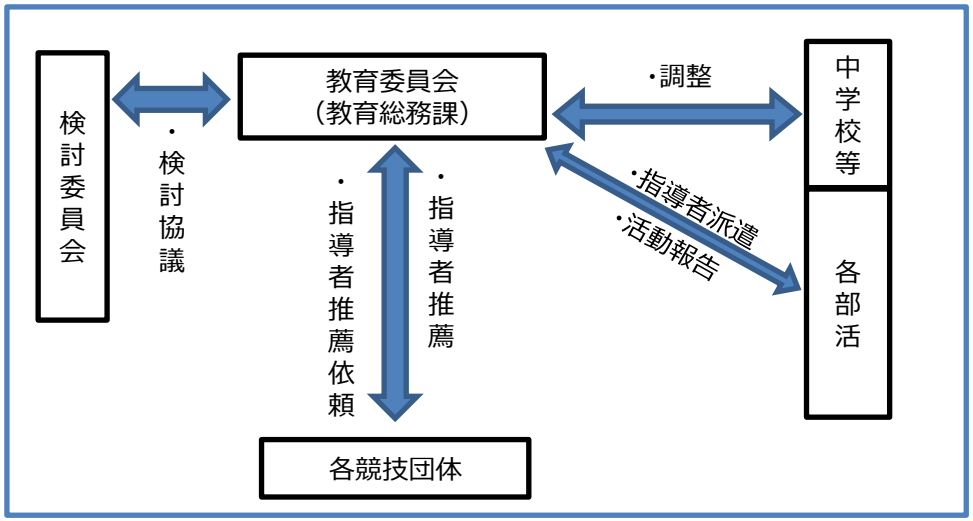
出典：根室市教育委員会

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会（教育総務課）

・市内中学校等の部活動および、地域指導者との連絡調整

・各競技団体等との連絡調整

・謝礼金、費用弁償・保険料等の支払事務

・検討委員会の開催及び事務局事務

年間の事業スケジュール

4月
- ・専任主査を配置
- ・市内中学校等の部活動実施状況調査
- ・昨年度より進めている「ソフトテニス」「サッカー」の地域移行の試行を継続する
- ・新しい種目の拡充をすすめる

5月
- ・市内中学校等6校の全部活動を視察

6月
- ・中体連地区大会視察

7月
- ・市内スポーツ団体等へ地域移行に関する聞取り調査

8月
- ・市内小中高生、及びその保護者にアンケートを実施

10月
- ・2つの中学校の「バスケットボール部の休日合同練習を地域移行の試行として開始

1月
- ・根室市部活動地域展開検討委員会の開催

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		3種目	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		3種目（7部活動）
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数		0
全体の指導者数	19人	全体の運営スタッフ数	20人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（平日・休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
ねむろっ子スポーツクラブ（ソフトテニス）	市教育委員会	ソフトテニス	・休日 13回	夏： 9:00～11:00 冬：13:00～16:00	1年17人 2年15人 3年 5人	令和7年6月～令和8年2月	12人	1人（内、兼務1人）	0円/年額	中体連：部活動
ねむろっ子スポーツクラブ（サッカー）	市教育委員会	サッカー	・休日 18回	9:00～11:00	1年 9人 2年 2人 3年 9人	令和7年6月～令和8年2月	2人	1人（内、兼務1人）	0円/年額	中体連：部活動
ねむろっ子スポーツクラブ（バスケットボール）	市教育委員会	バスケットボール	・休日 12回	9:00～11:00	1年 9人 2年 7人 3年 0人	令和7年6月～	5人	1人（内、兼務1人）	0円/年額	中体連：部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

●特になし

2.実証内容と成果

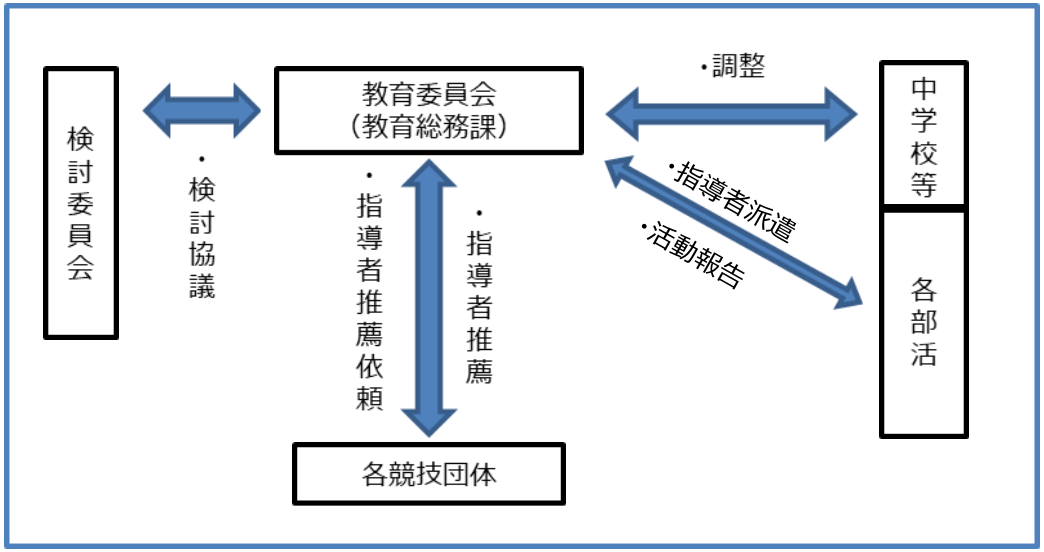
スポーツ庁

主な取組例

●ねむろっ子スポーツクラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ソフトテニス、サッカー、バスケットボール
運営団体名	ねむろっ子スポーツクラブ
期間と日数	ソフトテニス：夏－月2回程度 冬－月1回程度 サッカー　：月2～3回程度 バスケットボール：　月2回程度
指導者の主な属性	各スポーツ競技協会
活動場所	中学校体育館、市テニスコート、市サッカー場、市青少年センター
主な移動手段	生徒各自で対応
1人あたりの参加会費等（年額）	各種目とも：0円/年額
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年または 1,200円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

●教育委員会

役割：各競技団体より推薦を受けた指導者を登録し、協議が整った部活動に派遣し、部活顧問、指導者の調整を行い、指導員への報酬等の支給や保険加入手続き等を行う。また、検討委員会事務局として、会議開催等の事務を行う。

●指導者　19名

役割：担当する休日の部活動の指導を行う。

●検討委員会

役割：部活動地域移行の課題や解決策について検討を行う。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 部活動アプリを使用し、練習日程等について、生徒と地域指導者、顧問、保護者、学校の情報共有の効率化を図り、それに伴う事務をスリム化し、関係者の連携を深め活動の活性化に努める。
- 部活動の地域移行について、市内小中高生及びその保護者へのアンケートを実施した。

取組の成果

- 部活動アプリを使用しての連絡は効率的に行われ、地域指導者と生徒間はもとより、保護者や学校とも情報が共有できた。
- 市内バスケットボール協会、学校との協議が整い10月からバスケットボール部の休日の地域移行を試行として始めることができた。

コーディネーターの具体的な動きの実績

当市の取組としてコーディネーターは配置していないが、地域指導者、学校、等との調整を担当職員が行っている。

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

地域指導者と生徒、顧問との連絡を部活アプリを活用して行い、加えて、保護者や学校も内容を確認できるシステムとなっていることから、情報の共有化が図られ保護者からの評判も良い。

今後の取組における課題

当市の今後の地域移行は、画一的な方法ではなく、それぞれの部活動と指導者の状況により実施方法を工夫したいと考えていることから、各部活動の指導方針や指導いただく団体等の活動状況、指導者となる人の都合等を確認、調整することが必要となる。

課題への対応方針

現在中学校等で行われている部活動の種目について、市内の競技団体等と個別に協議を行い課題等を洗い出し、実施に向けた取組につなげる。

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

地域移行の活動中、及び行き帰りで事故やケガがあった場合、速やかな対応と保護者への連絡ができるよう連絡網を整備した。

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

特に問題となるようなことはなかったが、トラブル等が発生した場合、教育委員会が中心となり対応することとしている。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

試行として行っている、休日の合同練習の指導種目の拡大を図るため、各競技団体と協議し指導者を増やすとともに、検討委員会を組織し、部活動の地域移行について協議する。

取組の成果

市内のバスケットボール協会、学校との協議が整い10月からバスケットボール部の休日の地域移行を試行として始めることができた。

また、1月に検討委員会を組織し、当市の地域展開について競技団体や学校の考え等を伺い、現状認識の共有をすることができた。

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

・市内各競技団体に休日及び平日に指導可能な指導者の推薦を依頼。

・推薦された指導者を教育委員会で登録し、学校と協議を行う。

指導者研修の内容

研 修 名	部活動地域移行（試行）に伴う地域クラブ活動指導員研修
講　　師	根室市教育委員会教育総務課部活動地域展開主査
研修内容	1　根室市の部活動地域移行について 2　根室市地域クラブ活動指導員について ・部活動の位置づけと意義 ・指導員の職務と服務の厳守 ・いじめの未然防止　等 3　事故が発生した場合の現場対応等について 4　指導で困ったときは

今後の取組における課題

バスケットボール部に続く部活動の地域移行を進めるため、個々の種目の指導可能な団体等との協議が必要である。

課題への対応方針

部活動の指導可能な団体や指導をしていただける方の情報収集を行う必要がある。

また、部活動の活動時間について、平日の地域展開も視野に入れた、地域指導者と生徒、保護者との話し合いが必要と考える。

指導者研修受講者の声

●参加者の声

参加者①
部活動の地域移行指導者として関わるうえで、先生と同じ内容で求められ、単に協議の指導をするだけではなく、子どもへの色々な配慮が必要なことがわかった。

参加者②
少年団を指導しているときは、子どもに「先生じゃないから」と多少気合の入った話し方や、指導をしていた。このことは、保護者からも了承を得ていたが、地域移行では、してはいけないということがわかった。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 試行として行っている、休日の合同練習の指導を継続するとともに、競技団体と個別の協議を行いそれぞれの移行にともなう課題を解決し、試行を実施する種目を拡大する。
- 検討委員会を組織し、望ましい部活動の地域移行について協議する。

取組の成果

昨年度から取組んでいる「ソフトテニス」「サッカー」に加え、根室バスケットボール協会と学校との協議が整い10月から「バスケットボール部」の休日の地域移行を試行として始めることができた。

今後の取組における課題

- 当市で地域移行の指導者は、各競技団体等で活動している方々にお願いすることが一番重要であると考えている。
- 各競技団体等は、これまでの歴史や経過があり、それぞれの課題等を抱えており画一的な対応では地域移行は難しいことから、個々の競技団体と時間をかけた協議が重要となる。

課題への対応方針

個々の競技団体と時間をかけた協議を行い、指導可能な方法や時間帯等について協議、指導者を推薦いただき、地域移行につなげる。

●取組項目名　エ：面的・広域的な取組

取組事項

各競技団体より推薦を受けた地域指導者等の条件が整った部活動から試行的に取組む。

取組の成果

根室バスケットボール協会と学校との協議が整い10月から2つの中学校のバスケットボール部の休日の合同練習を地域移行の試行として始めることができた。

今後の取組における課題

当市は、東西約100kmの中に中学校・義務教育学校が6校あり、市中心部から車で往復1時間かかる学校もある。スクールバスで通う生徒もおり放課後の限られた時間に移動を伴う全市的な活動は難しいと考える。

課題への対応方針

望ましい環境は、生徒が公共交通機関等を使い一カ所に集まって活動できることと考えるが、当市の現状では公共交通機関を利用して集まることはかなり厳しいことから、予算面も含め、画一的な方法ではなく各校の状況に応じた実施形態の検討が必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実

取組事項

地域移行の試行として地域指導者が入っても、生徒が混乱や不安にならないよう現状の活動を維持する。

取組の成果

•試行として行っている3種目について、指導者と各顧問との連携を図るとともに、生徒の試合等の様子を確認して、伸ばすべきポイントに配慮した指導を行った。
•生徒の中には、休日の練習方法・方針の相性が良かったのか、短期間で目を見張るほどの成長を感じる生徒がいる。

今後の取組における課題

当市の地域移行は指導者が確保され、学校と協議が整った部活動の休日の合同練習から試行として取組んでいるが、各学校の指導方針等に差がある中、休日の指導だけを同じ内容で指導することに生徒も戸惑うこともあるようである。

課題への対応方針

•団体競技の場合は、参加する学校で合同チームの方針等をまとめてもらい、外部指導者はその方針等に沿った休日の練習メニューに取組み、休日の練習内容を部活アプリに掲載し、顧問との情報共有と必要に応じて話し合い等を行う。
•個人競技については、各生徒の状況等を把握しながら、このことに配慮した練習メニューで行う。

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等

取組事項

試行期間として、保険料、アプリ使用料は全額公費負担している。

取組の成果

試行期間として、参加生徒から活動にかかる負担等は求めていないことから、生徒や保護者から特に意見はない。

課題への対応方針

これまで、保護者の部活動にかかる経費負担は、道具の購入や遠征費等であったが、今後の地域移行の完全実施に向けて、公費負担と保護者の負担について検討が必要である。

今後の取組における課題

国が保護者の負担について検討しており、この結果や国の補助制度等を踏まえて当市の公費と保護者の負担について検討する。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等

収支バランス

【収入】

・地域移行の「試行」として取組み、当市の課題をあらいだし、解決策を探り出す期間は、参加者に負担は求めず、受託事業と市費で経費を賄っている。

【支出】

・部活動の指導者に謝礼金と費用弁償（交通費）支給。
・各種目で使用するボール等を購入。
・生徒、指導者、保護者、顧問、学校、教育委員会間の間で練習の出欠や連絡事項、練習内容や指導状況の報告のため、スマホなどで使用できるアプリを導入し、この使用料を公費で負担。
・生徒、指導者の保険を公費で負担。

●収入

項目	費用	割合
公費	623,227	100%
合計	623,227	—

●支出

項目	費用	割合
地域クラブ活動費	623,227	100%
諸謝金（指導者）	384,000	61.6%
費用弁償	61,457	9.9%
消耗品費	18,020	2.9%
使用料及び賃借料	64,240	10.3%
雑役務費	1,260	0.2%
役務費（保険料）	94,250	15.1%
合　計	623,227	—

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

- 試行として行う休日の部活動は、翌月の練習日程を基に学校の決まりに従い体育館の日程を調整し、練習日を確定する。
- 各種目の練習に数の確保するため、市営体育施設の使用について教育委員会担当課と協議する。

今後の取組における課題

- 学校体育館や市営の種目専用施設は、特段の問題なく調整できた。
- 市営体育館を使用する場合は、年度当初からのスケジュール調整が必要となることに加え、使用回数も限られることから、市内小・中学校体育館等の使用について検討が必要である。

取組の成果

- 学校体育館は各学校のルールに基づく調整により、混乱なく使用できた。
- 種目による、市営体育施設の使用により、部活の活動日を確保することができた。

課題への対応方針

参加する生徒が在籍する学校を中心に、学校に負担をかけることの無いよう調整を行い会場確保に努める。

学校施設利用上の負担軽減に向けた取組

- 「試行」として行う休日の活動は、それぞれの種目で学校のルールに基づき調整し、新たな負担を生じないように実施した。

用具使用・管理等における取組

- 部活動に使う用具は、学校を会場に活動する場合は、会場となる学校の用具を使用し、市施設で活動する場合は、種目により各学校の用具を使用する場合や教育委員会で用意したものを使用する等している。
- 地域移行として取組む全ての活動の責任は、学校ではなく教育委員会で持つこととしている。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

- 昨年度より試行として開始した休日の2種目、「ソフトソフトテニス」「サッカー」の地域移行を継続できた。
- 新たに「バスケットボール」を試行として開始できた。
- 試行として行う活動については、地域指導者、顧問、学校で協議し、生徒の状況を確認しながら完全移行を目指す。
- 達成状況の検証は、指導者や参加生徒及び保護者への聞き取りや指導者からの実績報告をもって確認を行う。
- 市内競技団体等と協議し、休日の部活動種目の拡充目指す。
- 条件が整った部活動から平日の活動の移行を進める。

●成果の評価

- 昨年度から試行として取組んできた2種目「ソフトテニス」「サッカー」の活動を継続することができた。
- 新たに「バスケットボール」を試行として開始できたことは、種目の拡充に向けて協議を重ねてきた成果である。
- 一方、他の種目についても、各競技団体等と協議を行っているが、課題が多く中々指導者の確保ができず、地域移行につなげることができなかった。

●今後に向けて

- 種目ごとに、各校の部活動と競技団体と練習をする曜日や時間帯などの協議を個別に進める。
- 複数校の部活動を集約した場合や各校での部活として継続した場合など、各部活動の状況に応じた地域移行の活動方法についてを検討を進め、地域移行の拡充をすすめる。
- 検討員会で、休日の地域移行するための課題を協議するとともに、当市の平日を含めた地域移行の在り方についても検討する。

2.実証内容と成果②

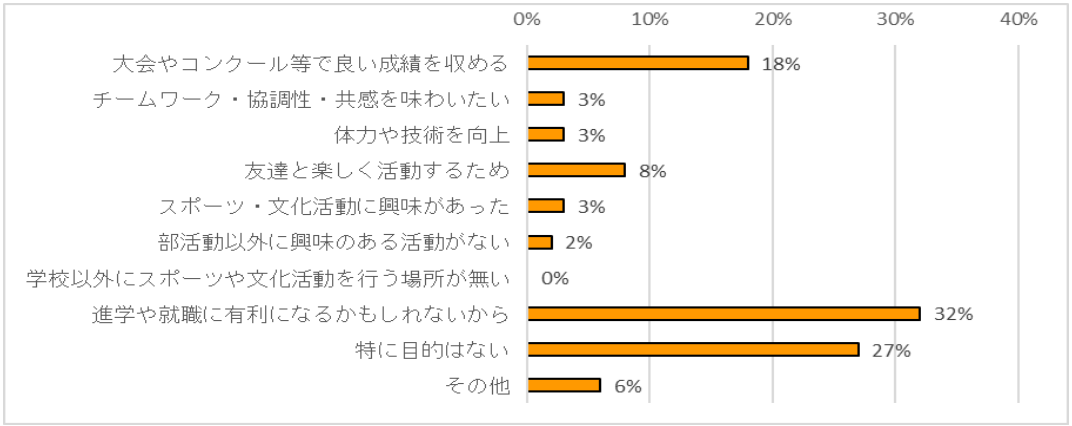
スポーツ庁

アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果

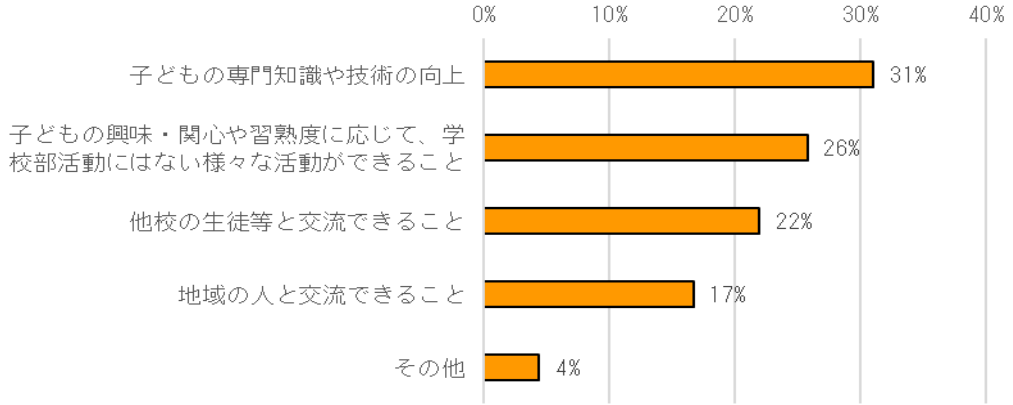
令和7年度 部活動地域移行アンケート（中高生）より

Q.あなたが、部活動に入部する目的について、当てはまると思われるものをすべて選んでください



令和7年度 部活動地域移行アンケート（保護者）より

Q.部活動の「地域移行」に期待することはありますか？（複数回）



●参加者/関係者の声

中学生

- コーチ（地域クラブ活動指導員）がわかりやすく教えてくれる。
- 技術が向上した。
- 生徒以上に大人たちが勝ちにこだわりすぎている。

保護者

- （子どもが）楽しそうです。
- 専門（経験者）の方に指導してもらえるようになり良かった。
- 他校の生徒と交流できることが良い。

先生

- 放課後直ぐに指導に行けないので、平日に指導者がいたら。
- 様々なスポーツを幼少期から楽しみ、同じスポーツをずっと行うのではなく色々な種目ができる機会がたくさんある活気あるまちになると 良いと思います。

地域クラブ活動指導員

- 基礎技術の向上や競技に関する考え方、礼儀等変わってきたと思います。
- 子どもたちの今後を見据えた時、勝ち負けよりも気持ちよいあいさつや自分の考えをしっかり話すことの方が大切だと思います。

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

参考資料



地域クラブ活動指導員によるソフトテニス部の指導



地域クラブ活動指導員によるサッカー部の指導



地域クラブ活動指導員による
バスケットボール部の指導

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4･5年

市内小･中学校･義務教育学校への
ヒアリングを実施し、教育委員会内で協議

●経過

部活動の地域移行について、各小･中学校や義務教育学校、各校の教員の考えを聞くため、各校でヒアリングを行った。

●ヒアリング結果

部活動の指導に携わっている先生や担当していない先生、少年団に携わっている先生等や授業準備、家庭との時間等様々な要因があり、地域移行についての考えは様々であった。

令和6年

休日の複数校の合同練習を
地域移行の試行として実施

●根室市の方針

当市の地域移行の取組として、各競技団体と協議して指導者を登録。学校との協議を整え試行として地域移行を実施しながら、種目を拡充する。
種目の拡充とあわせて、地域移行への課題を洗い出し、平日も行う地域移行の完全実施を目指す。

●実施内容

【5月】
・ ソフトテニス部の地域移行の試行方針について、ソフトテニス協会、関係学校、保護者との協議を行う。
・ サッカー部の地域移行について、サッカー協会と協議を進める。

【6月】
・ ソフトテニスの休日の2校の合同練習を地域移行の試行として開始。

【12月】
・ サッカーの休日3校の合同練習を地域移行の試行として開始。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

令和8年度～令和10年度

- 市内中学校・義務教育学校（後期課程）で行っている休日の部活動を地域で担い実施する種目を増やすため、市内スポーツ団体や文化団体と個別に協議する。
- 各校の部活動の実施状況に応じた内容を地域移行として継続するための調査・研究を行う。
- 条件の整った部活動から、平日の部活動の指導を地域で行う。

令和11年度～令和13年度

- 令和13年度中に、市内中学校・義務教育学校（後期課程）の休日の部活動をすべて地域で担い実施することを目指すため、市内スポーツ団体や文化団体との個別協議を継続する。
- 各校の部活動の実施状況に応じた内容を地域移行として継続するための調査・研究に基づき実施に向けて取組む。
- 条件の整った部活動から、平日の部活動の指導を地域で行う。